

事業評価監視委員会審議資料

再評価事業の説明資料

国営沖縄記念公園

沖縄総合事務局開発建設部

国営沖縄記念公園

平成21年 3月13日

沖縄総合事務局 開発建設部

目次



- . 事業概要
- . 事業の必要性等
- . 事業進捗の見込み
- . コスト削減等の可能性
- . 対応方針(原案)

事業概要 全国の国営公園の状況

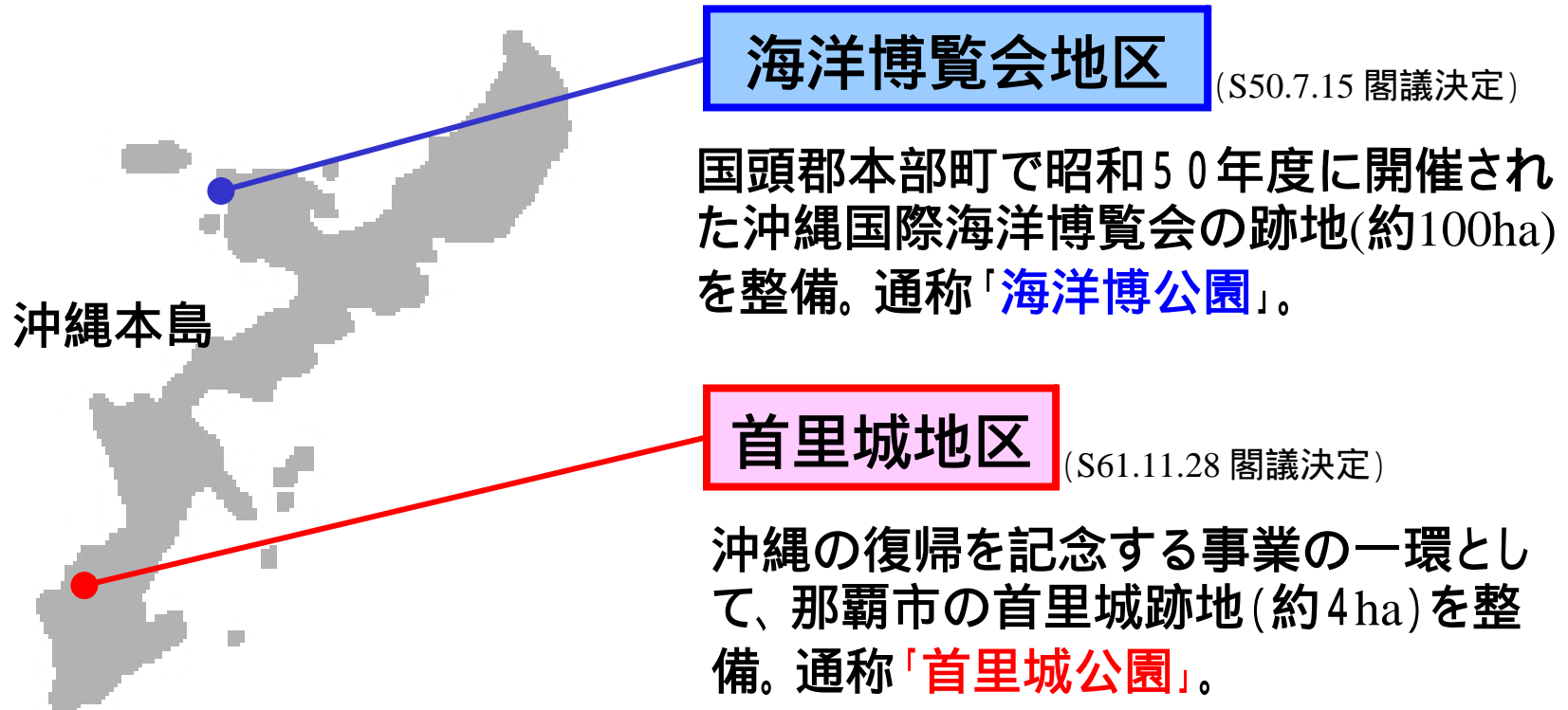
国営公園とは、国が整備・管理する公園で、全国に17箇所整備され、16箇所が開園している。



全国の国営公園位置図

事業概要 公園の位置

国営沖縄記念公園は下記の2地区で構成



事業概要 公園の経緯

S50.7.15 沖縄国際海洋公園の設置について閣議決定

S50.7.20 ~ S51.1.18 沖縄国際海洋博覧会開催

S51.3.22 都市計画決定

S51.9.1 海洋博覧会記念公園の正式供用開始

S61.11.28 首里城跡地を「**国営沖縄記念公園首里城地区**」として整備することが閣議決定される。従来の海洋博覧会記念公園は「**国営沖縄記念公園海洋博覧会地区**」と位置づけ

H4.11.3 首里城地区の供用開始



S50.7.19
沖縄国際海洋博覧会
開会式



S8年以降の首里城
(復元前)

事業概要 海洋博公園の基本方針

海洋博覧会地区

沖縄にふさわしい公園とするとともに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とする。

沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とする。

日本だけではなく外国の人々にも利用される公園とする。

海との調和を十分考慮する。

亜熱帯性気候を十分考慮し、四季を通じて利用できるものとする。

歴史的・文化的資源を生かした公園とする。



事業概要 海洋博公園の全体計画図

基本テーマ「太陽と花と海」を具現化する3ゾーンで構成



事業概要 海洋博公園



沖縄美ら海水族館



海洋文化館



中央ゲート



海洋博公園空撮

海洋博公園
OCEAN EXPO PARK



熱帯ドリームセンター



エメラルドビーチ

事業概要 海洋博公園の管理運営状況



四季を通して楽しめる植物



サマーフェスティバル



沖縄の文化体験



イルカ観察会



地域住民とのイベント開催

事業概要 首里城公園の基本方針

首里城地区

首里杜(すいむい)構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。

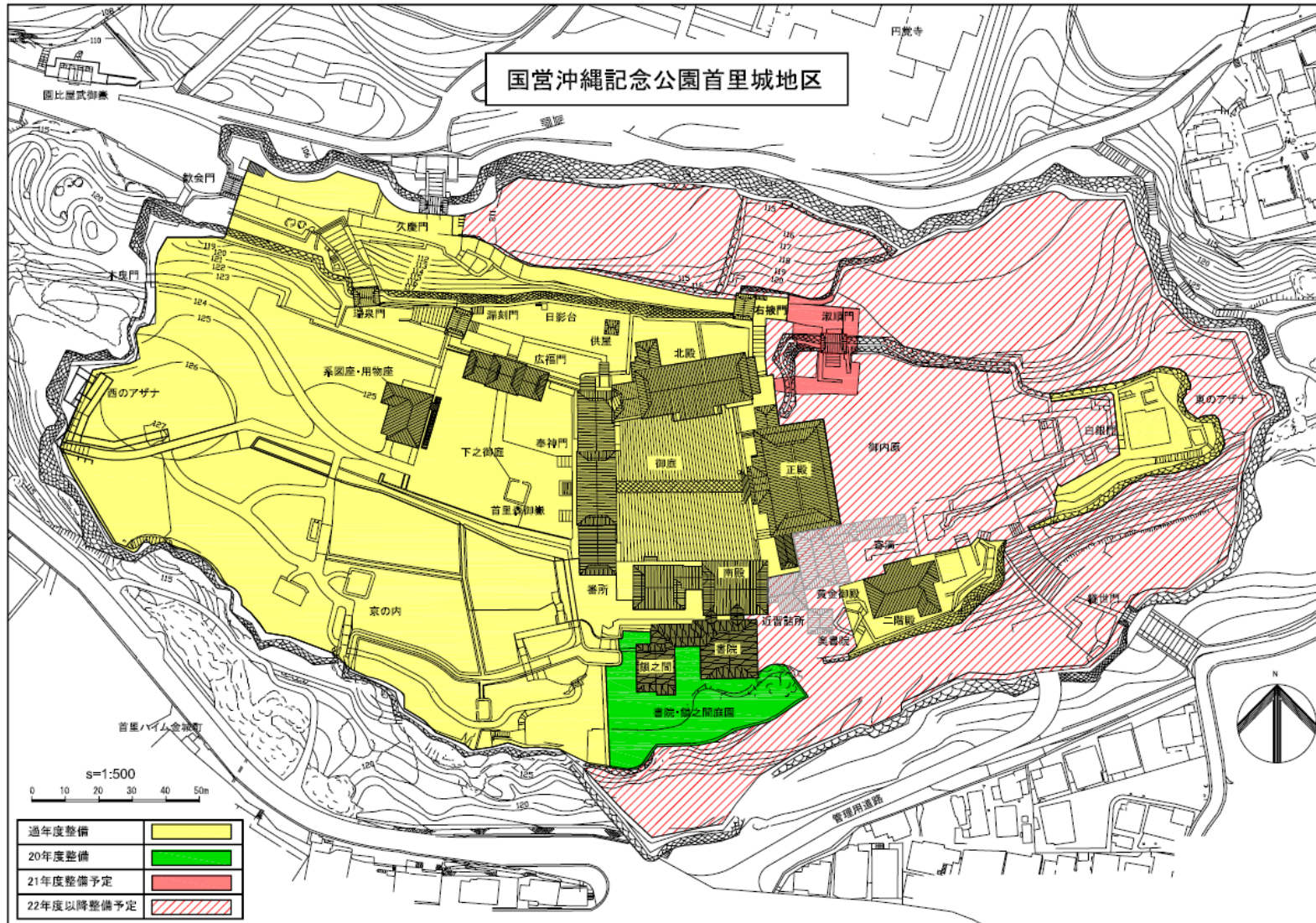
歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。

将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。

文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。



事業概要 首里城公園の全体計画図



事業概要 首里城公園の全体計画図



首里城完成予想図

事業概要 首里城公園



正殿



書院・鎖之間



首里城公園空撮



瑞泉門

事業概要 首里城公園の管理運営状況



新春の宴



首里城祭「絵巻行列」



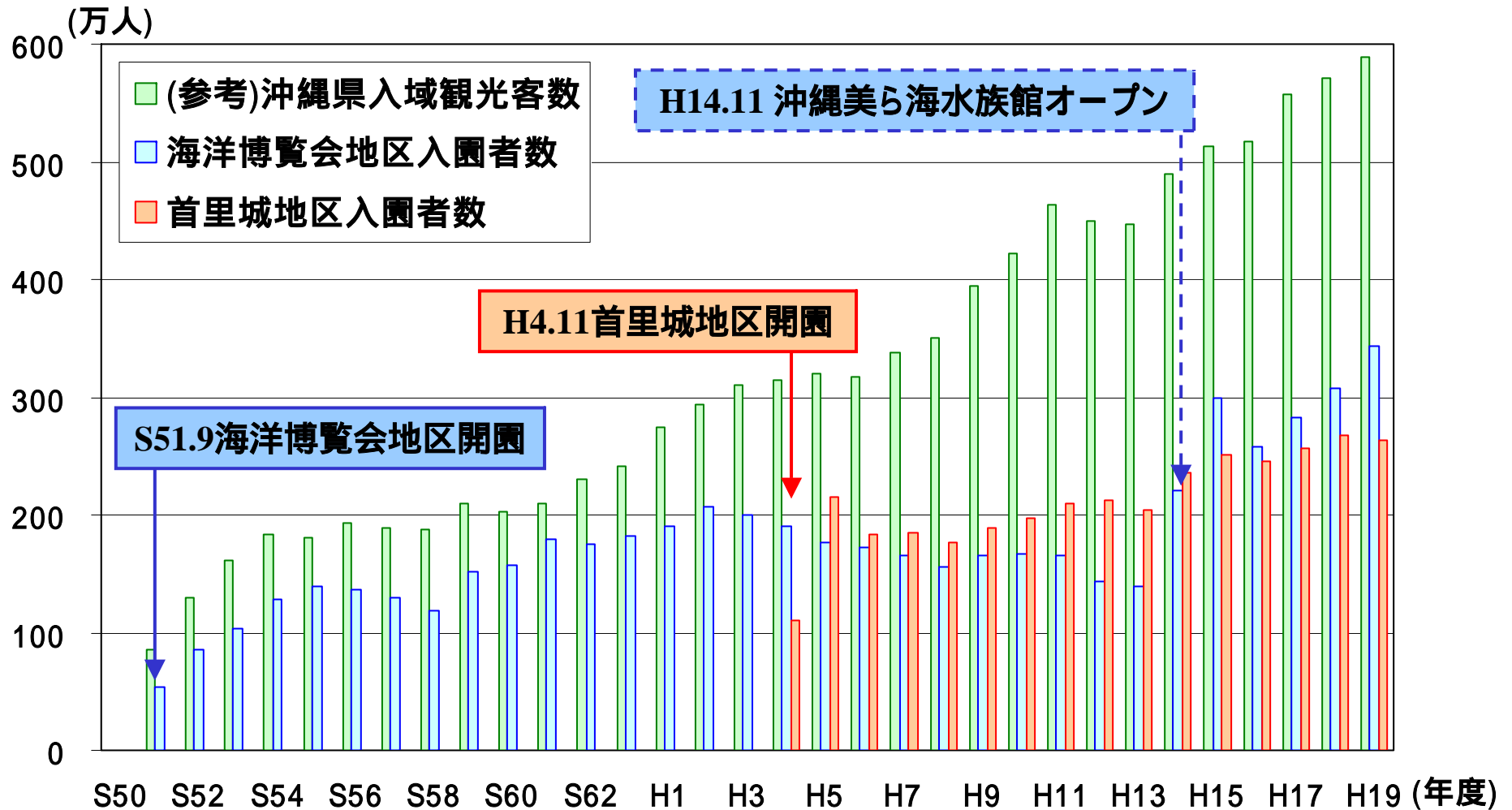
花まつり



中秋の宴

事業の必要性等 公園利用状況

公園入園者の推移



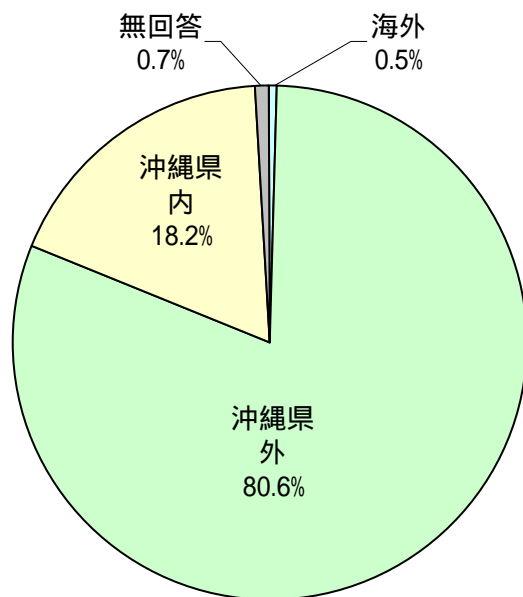
事業の必要性等 公園利用状況

公園利用者へのアンケート調査(H19年度)

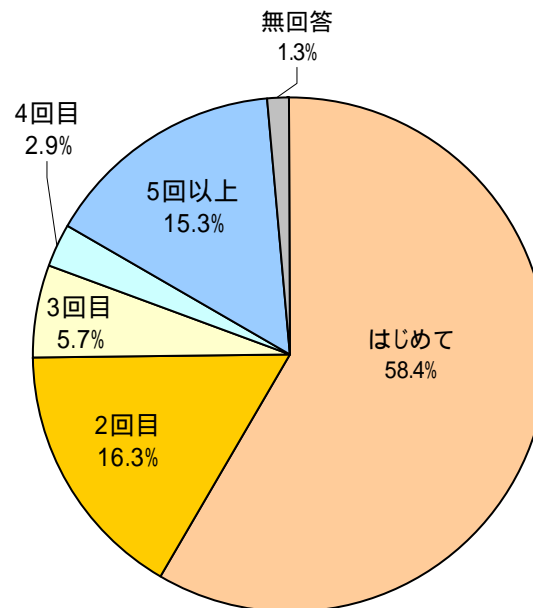
海洋博覧会地区



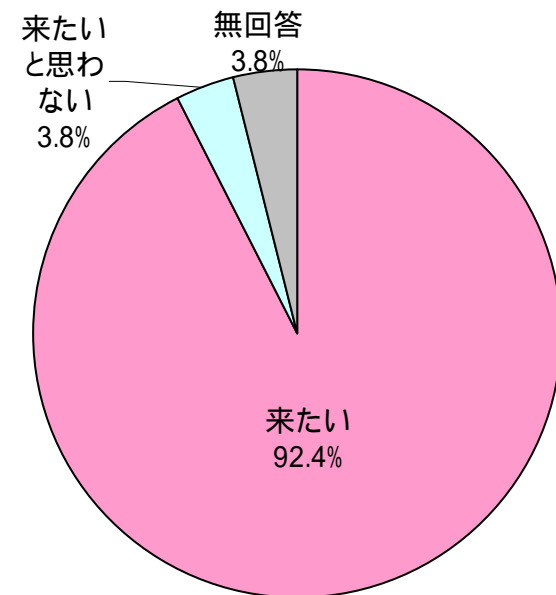
県内外の観光客がリピーターも含め来園し、再来訪の意向が強い。



県内外別の来園者内訳



来園回数

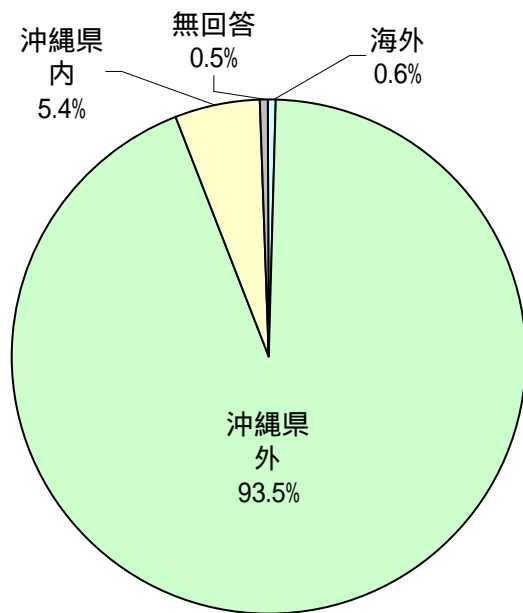


再来訪の意向

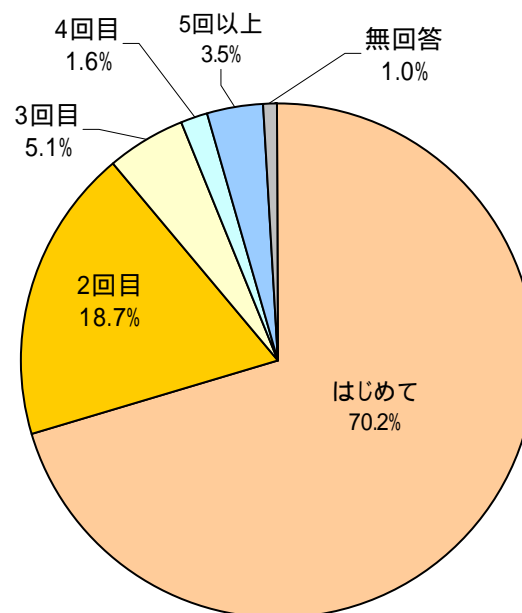
事業の必要性等 公園利用状況

公園利用者へのアンケート調査(H19年度)

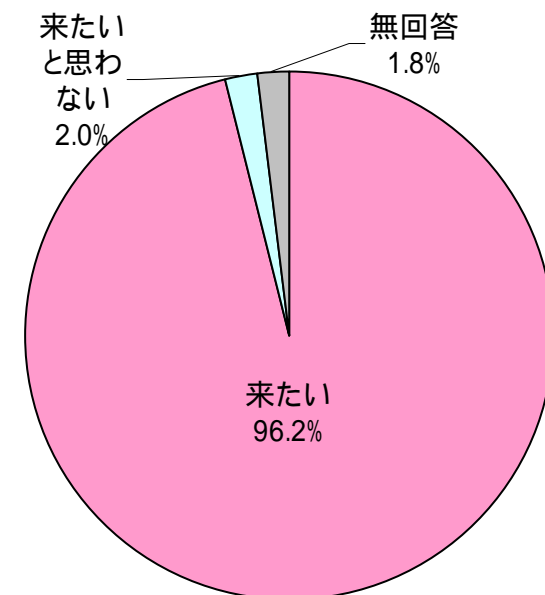
首里城地区 → 主に県外の観光客がリピーターも含め来園し、再来訪の意向が強い。



県内外別の来園者内訳



来園回数



再来訪の意向

事業の必要性等 費用対効果分析 1

公園整備によって生じる価値・・・(B)

計測対象

価値分類		意味	機能	価値の種類(例)
利用価値	直接利用価値	直接的に公園を利用することによって生じる価値	健康・レクリエーション空間の提供	健康促進、心理的な潤いの提供、レクリエーションの場の提供など
	間接利用価値	間接的に公園を利用することによって生じる価値	都市環境維持・改善	緑地の保存、動植物の生息・生育環境の保存など
			都市景観	季節を享受できる景観の提供など
			都市防災	防風・防潮機能、災害地の避難地確保など
オプション価値	現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値			
非利用価値	存在価値	公園が存在することを確認すること自体に喜びを見いだす価値		
	遺贈価値	将来世代に残す(将来世代の利用を担保する)ことによって生じる価値		

・事業の必要性等 費用対効果分析2

1) 直接利用価値の計測方法

沖縄本島居住者と島外居住者に分けて計測する。



旅行費用法により算定

旅行費用法とは、「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」という前提のもと、公園までの移動費用(料金、所要時間)を利用して公園整備の価値を貨幣価値で評価する方法。

【便益の考え方】

需要推計モデルを用いて、当該公園の需要関数を導出し、その消費者余剰分をもって公園の直接利用便益とする。需要関数は旅行費用を説明変数とし、競合公園との関係から当該公園の需要量(年間総利用回数)を導く関数である。

・事業の必要性等 費用対効果分析3

1) **直接**利用価値の計測方法

沖縄本島居住者と島外居住者に分けて計測する。



島外居住者が本公園を利用するためだけに来訪するケースを正確に把握するのは困難なため、旅行費用法による計測は不適。



公園利用のために旅行費用に追加して支払ってもよい金額をアンケート調査し、支払い意思額を計測

・事業の必要性等 費用対効果分析4

2) 間接利用価値の計測方法

周辺の居住者について計測する。



効用関数法により算定

効用関数法とは、「公園整備を行った場合と行わなかった場合の周辺世帯の持つ望ましさ(効用)の違い」を貨幣価値に換算することで公園整備を評価する方法。

【便益の考え方】

緑地面積、広場面積、公園からの距離、防災機能の有無を説明変数とする効用関数により、「環境の維持・改善、景観」及び「防災」に関する効用値を算出し、これを用いて、個々の世帯の満足度を計算し、当該公園がある場合とない場合の満足度の差から、個々の世帯の便益額を算出し、世帯数を乗じて、単年度便益とする。

・事業の必要性等 費用対効果分析5

費用の算定・・・(C)

総費用 = 用地費 + 整備費 + 維持管理費

B/C分析の前提条件

社会的割引率・・・4.0%

計測期間・・・事業開始年次から50年間

昭和50年次(1975年)～平成37年次(2025年)

事業の必要性等 費用対効果分析6

費用便益費 (B/C) の算定

総便益 (B)	437,384 百万円
直接利用価値	399,762 百万円
間接利用価値 (環境)	14,239 百万円
〃 (防災)	23,383 百万円
費用 (C)	300,732 百万円
用地費	11,866 百万円
施設費	172,458 百万円
維持管理費	116,408 百万円
費用便益費 (B/C)	1.45

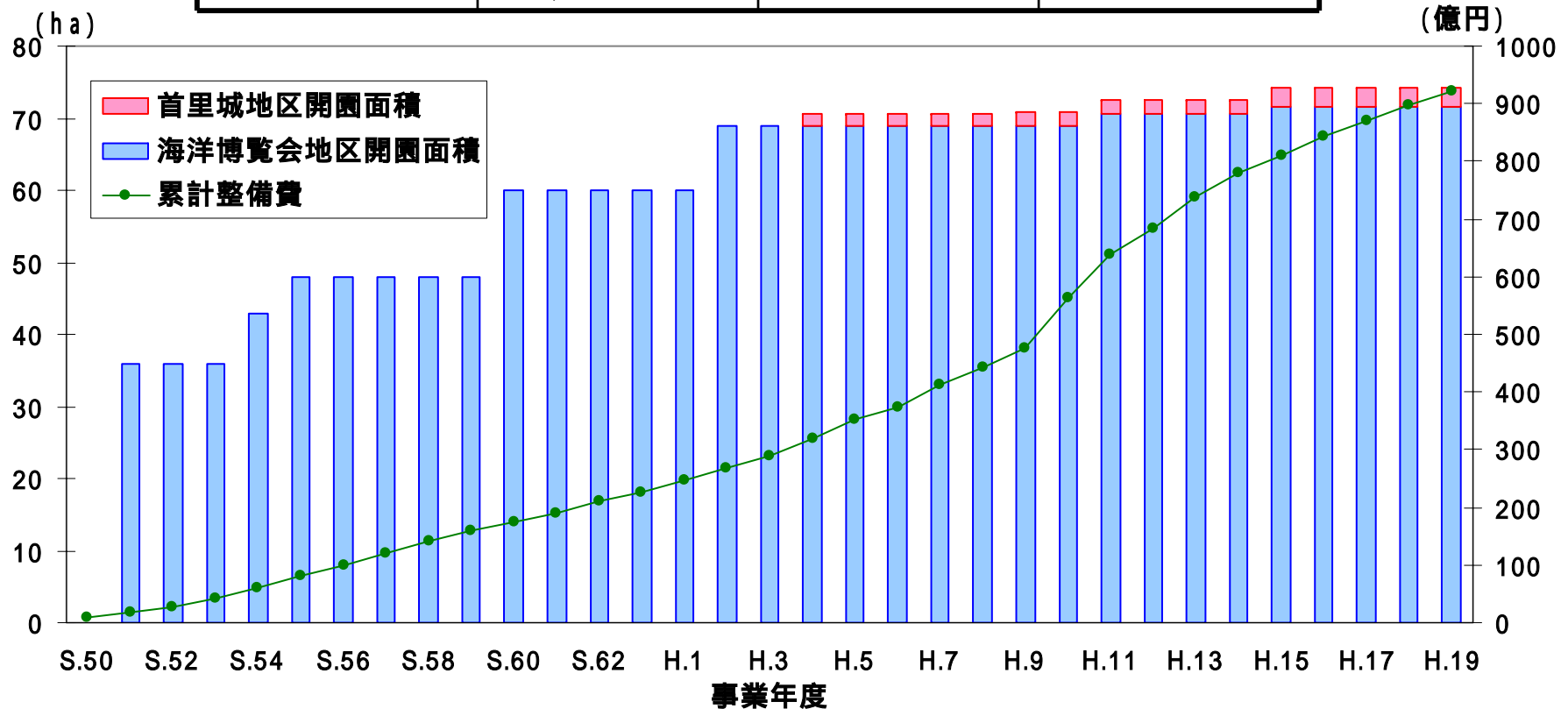
島外居住者(観光客)については、本公園を利用するためだけに来訪するケースを正確に把握するのは困難なため、旅行費用法による計測は行っておらず、直接利用価値は過小になっていると考えられる。

大規模公園費用対効果分析マニュアルによる

事業進捗の見込み

累計整備費と開園面積の推移

	全体計画	H19末進捗	進捗率
事業費	1,170億円	921億円	78.7%



事業進捗の見込み

事業の進捗状況

	海洋博覧会地区 (昭和50年度～)	首里城地区 (昭和61年度～)	公園全体(+)
計画面積	77.0 ha	4.7 ha	81.7 ha
開園状況	71.6 ha	2.7 ha	74.3 ha
進捗率	93.0 %	55.4 %	90.9 %

事業進捗の見込み

海洋博覧会地区

平成20年更新の『海洋博公園基本計画』に基づき整備を進める。

基本計画方針図

エメラルドゲートおよび同駐車場の新設

熱帯ドリームセンター駐車場整備

海洋文化館の改修

旧水族館跡地に休憩施設整備

夕陽の広場整備

オキちゃん劇場・イルカスタジオの代替設備

園路のバリアフリー化

平成29年度完了予定

事業進捗の見込み

首里城地区

→ 今後も御内原の整備を行い首里城の復元を目指す。

首里城公園完成予想図(CG)



正殿(整備済)

今後の復元整備予定

世誇殿(よほこりでん)

美福門(びふくもん)

奥書院(おくしょいん)

黄金御殿・寄満
(くがにうどうん・ゆいんち)

↓
平成29年度完了予定

・コスト削減等の可能性



園内伐採物の再肥料化



廃材を利用した敷石



壁面緑化の実験

引き続き、建設副産物の有効利用、植物廃材の利用等を進めるとともに、ライフサイクルコストの低減を意識した計画的な施設整備や老朽施設の改修を行い、必要なコスト縮減に努める。

・今後の対応方針(原案)

国営沖縄記念公園は、両地区合わせた年間の入園者数が600万人を超え、沖縄観光の核となる施設となっており、沖縄振興への貢献度は大きい。

しかし、昭和51年から海洋博覧会地区を、平成4年からは首里城地区を開園し現在も整備を続けているが、未開園部分が約10%残っており、また施設の老朽化が激しい状況となっている。

今後も、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園として、また沖縄の歴史・文化の拠点となる魅力ある公園として、周辺地域とも連携し、時代の変化に対応した整備を行っていく必要がある。



以上より、引き続き本事業を推進することが妥当である。

(事業継続)